

ILC グローバル・アライアンス国際シンポジウム

◆◇**虚弱高齢者の統合ケアについて**—オランダと世界の視点◆◇

2011年9月29日（9：30～16：00）

ライデン（オランダ）



<プログラム>

1. 開会あいさつ

Mr. Jacques Schraven (ILC-NL 理事長)

2. ロバート・バトラー博士 メモリアルレクチャー

Prof. Rudi Westendorp (ライデン大学健康長寿センター長、ILC-NL 理事)

3. オランダにおける虚弱高齢者の状況

Prof. Paul Schnabel (オランダ社会研究所所長)

4. 長期介護における統合サービス

Dr. Henk Nies (長期介護研究所所長)

5. オランダ高齢者ケア国家プログラムプロジェクト

Prof. Betty Meyboom (高齢者ケア国家プログラム委員会議長)

6. 虚弱高齢者の統合ケアに関する世界の状況と展望

Baroness Sally Greengross (ILC グローバル・アライアンス共同理事長)

7. ディスカッション



ILC オランダ理事長の開会挨拶で始まったシンポジウムの最初は、ライデン大学健康長寿センター長で、ILC オランダ理事でもある Rudi Westendorp 博士が「ロバート・バトラー・メモリアルレクチャー」として、バトラー博士の業績をたたえ、その意思を継ぐべく取り組んでいる研究発表を行った。



続いてオランダの研究者 3 名により、標題のテーマに従ってオランダの現状と課題の分析、今後の政策展開にあたっての方針などが解説された。

最後に ILC グローバル・アライアンス各国の統合ケアの実態と課題が、グリーングロス共同理事長から紹介された。日本は「地域包括ケアセンター」を中心にした多面的な介護の基本方針と、その現実の運営についての報告を行った。



質疑応答では医療保険と介護保険の財源のあり方について、磯部企画運営委員が解説した。

